

ILL: 2911314 :Borrower: SNN :ReqDate: 20030114 :NeedBefore: 20030213
 Status: NOT RECEIVED :RecDate: NO :RenewalReq:
 OCLC: 36911349 :Source: OCLCILL :DueDate: N/A :NewDueDate:
 Lender: *YJ@,YJ@,YJ@,YJ@
 TITLE: Ryukoku Daigaku ronshu.
 IMPRINT: Kyoto-shi : Ryukoku Gakkai,
 ARTICLE: Takao Yoshitaka: Ryudai Tosyokan Syozou Sangaikyoshiryō ni tsuite
 VOL: 255 :NO: :DATE: 1924 :PAGES: 157-161
 VERIFIED: <TN:46458>OCLC ISSN: 0287-6000 [Format: Serial]
 PATRON: Hubbard, Jamie
 SHIP TO: ILL/NEILSON LIB(SNN)/NEILSON DR./SMITH COLLEGE/NORTHAMPTON,MA
 01063
 BILL TO: SAME
 SHIP VIA: ARIEL :MAXCOST: @N/\$25IFM
 COPYRT COMPLIANCE: CCL
 FAX: (413) 585-4485 ARIEL: 131.229.62.117
 E-MAIL: snull@smith.edu
 BORROWING NOTES: OBEGROUP or individual reciprocal
 LENDING CHARGES: 0.88IFM :SHIPPED: 20030115 :SHIP INSURANCE:
 LENDING NOTES: PAYMENT=IFM
 RETURN TO: N/A
 RETURNED VIA: :RETURNED: 20030128 :INSURANCE:

*illed:
not rec'd*

Not Received
Please re-send
Thanks SNN-ILL

INTERNATIONAL LOAN SECTION
 KYOTO UNIVERSITY LIBRARY
 Yoshida Honmachi, Sakyo-ku
 Kyoto, 606-8501 Japan
 TEL: +81-75-753-2153
 FAX: +81-75-753-2650
 Email: dds@kubit.kyoto-u.ac.jp

死線の彼方、來世に於て却つて安住の境地ありと假想して、人生無常の悲觀から救はれ、生の執着から免れやうとしたのが佛教の解脱法である。而して支那固有の思想は之と異り、死後に就て深く考ふる事無しに、成可く現世に於て之が解決を見出さんとしたりやうである。即ち儒は『命』を以て之を解決し、道は『化』を以て之を解決してゐる。二者の考へ方は相違してゐるが窮極する所は共に自然力に任せて盡るに歸する考へである。儒に従へば天道を行ひ天命を全くすれば最も幸福な有意義な生涯である、人生無常ぐらひ何でも無い。道に従へば無爲にして化すれば本望である、人生無常もへちまも無い道家から導かれた楊家の考へに従へば、人生無常なぞと愚痴をこぼしてゐるよりは、仕たい放題をして現世の快樂を貪り本能を満足させれば極樂淨土である。道家をもちつた神仙家に従へば徹底的に物慾を禁じ死せるが如く生けるが如く生を延長して不老不死の境涯に入れば我事成れりである。孰れにしても佛教の如く寂滅爲樂

だの涅槃だの云つたやうな死を樂しみ、死後に極樂淨土を求むるの思想は全く無いのである。然るに前述の如く後漢の詩に至つて明に死後の世界に對する思想が窺はれ始め、又無常觀の流行かくの如きを見る時、は其の來世觀も固有の『歸天』思想の單なる變形と見ることが出來ず、又其の無常觀も單なる楊家思想の現れとのみ看過することは出來ないと思ふ。其所に當時傳來の佛教思想が必ず影響してゐる事と結論される。

此の一篇は論じて未だ盡さざる所其多いが將に東北に向つて去らんとする行李勿々の際、編輯者との前約を重じて聊か其の賁を果すに過ぎぬものである。織錦機上、燕子泥を街んで落し行くも一寸皮肉であり、亦詩的ではあるまいか。
(大正十二年十二月廿九日稿了)

龍大圖書館所藏三階教資料に就て

高雄 義堅

支那各宗章疏中隋眞寂寺信行禪師の三階宗に言及せるもの、僅に西方要決、五十要問答、華嚴五教章、釋淨土群疑論等の數部に過ぎず、隨つて此等の註釋書たる我邦道忠の群疑論探要記、凝然の五教章通路記、普寂の同衍秘鈔、湛睿の同纂釋等にも夫々散説せらるゝと雖、多くは隔靴搔痒の嘆を免るゝ能はず、これ三階教典籍の早くより散逸して世に傳はるもの多からざるによる。唯だ道忠の探要記が「集録云」として三階教籍を引用し、比較的纏りたる三階教解説を試みたるは珍とすべし。三階教徒の著作は隋費長房の歷代三寶記に二部卅五卷と數へしもの、降つて開元錄貞元錄に至りては卅五部四十四卷となせり、高山寺縁起には

奉納一切經 附貞元錄

合大小乘經律論及賢聖集等

惣一千二百三十八部

合五千三百五十一卷内

缺本四十四卷、見在五千三百七卷、信行禪師三階佛法等已下四十四卷缺。而相當上人十三年之忌辰。續彼缺本滿一部畢。云云

とありて、上人とは明惠上人のことなるが故にその十三年の忌辰とは正しく後嚳峨帝の寛元二年(西紀一〇一〇)に當り、此の記事にして誤無くんば、藏經中より削除せられ居りし三階教籍の全部が此時高山寺一切經の中へ補足せられし筈なるに殆んど同時代の碩學道忠(西紀一〇二二)にして猶

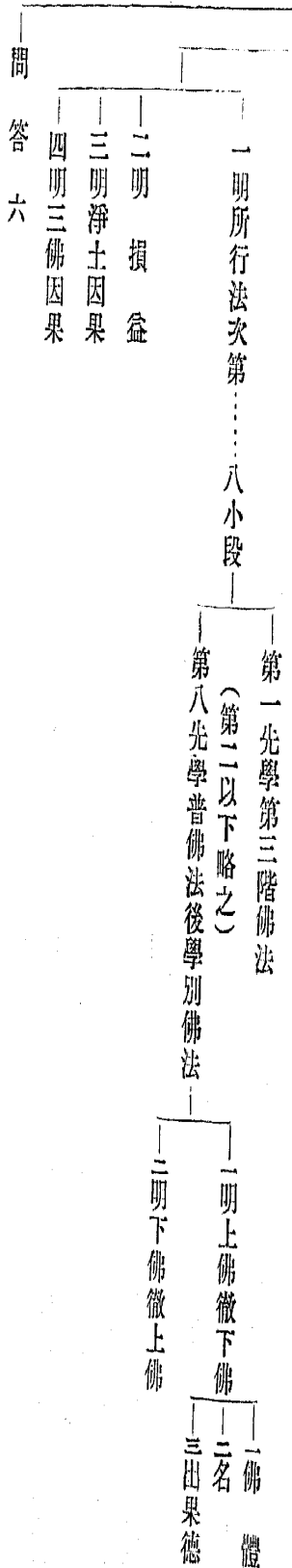
於中三階佛法四卷。法界衆生根機淺深法一卷 僅雖得之。其餘三十九卷。所未見及也。

この嘆聲を洩せるに見れば、如何に此種典籍の一般に流布せられざりしかを知るべく、其後道忠の見たる二部のものすら、散逸して世に流行せるを聞かざりき。然るに矢吹慶輝氏、大正五年倫敦大英博物館にて、スタイン氏蒐集古寫本

中より、三階教資料を發見し、歸朝後哲學雜誌にこれが研究を發表せられ、爾後引續き各方面の資料を蒐めて、學位論文を提出せらるゝのこゝとあり。近時余が友人神田喜一郎君も亦此方面に關係ある金石文を、支那學、並びに佛敎研究に發表せられてより、三階敎の研究遂かに世の注意を惹起するに至れり。我龍谷大學に於ても一昨年禪氏敎授の手を経て、三階敎の有力なる資料として燉煌古寫經一本を得、次で昨年妻木敎授の御盡力により、法隆寺藏三階佛法第一第二兩卷を筆寫するを得たり。

右燉煌古寫經は、堅七寸八分長さ二丈八寸の卷子本斷簡にして、前の部分に缺き、入集錄於十二部經修多羅內驗出對根起行法一卷の尾題を有し、一見隋代のものと思はる。余仔細にこれを點檢せしに、その内容スタイン氏蒐

集の八斷片中、矢吹氏の所謂第一斷片と符合するもの、如くに思はれしを以て、同氏に就てこれを確めしに、氏の所謂第一斷片は首尾完結し居り、従つて龍大本斷簡の約三倍の長さを有し龍大本はその後部の一部に符合せり。但し第一斷片には「入集錄於十二部經修多羅內驗出對根起行法一卷」なる尾題を有せずして、之に代ふるに「又明上末五門……亦永滅一切法界惡盡」の一百九十字を加筆せしものなることを知り、これ恐らく後に加筆せしものなるべし、今哲學雜誌所載矢吹氏の論文より推考するに、スタイン本第一斷片は、初部に對根起行法を明かすの一章ありて、總て五段より成る、これ開元錄に對根起行法一卷起行法於內有對根上下と云ふものと一致す、この一章終りて以下の所明は大約次表の如くなるべし。



問 答 六

右の中龍大本は、明上佛徹下佛の中の第三出果徳の下の中途より以下全部完備して、スタイン本と合致し、出果徳の一段の首部より以前の文を缺けり。従つて三階敎徒學説の標的たる對根起行や、その普佛思想の内容を形成する普敬認惡空觀等の説明は龍大本に於てこれを見るを得ずと雖、この斷簡のみの内容を以てしても、猶三階敎の教義を發揮する點とせず。例せば先學普佛法後學別佛法の下に於て、先づ普佛法を學ぶ理由は、報身體、名、果徳の何

れより云ふも、要するに上下互に通徹して普佛の域を出ざるに存して、斯くて第三階の普法と第一二階の別法とを比較せば、前者が體佛法、根本佛法、生盲衆生佛法、世間菩薩所行佛法、自利行、得苦得惡佛法なるに對し、後者は相佛法、枝條佛法、有眼衆生佛法、出世間菩薩所行佛法、利他行、得好得樂佛法となる旨を示せる如き、又淨土因果を明せる一段の如きは、第一階より第三階で夫々因と果を分ち、因を説明するに斷惡修善の二方面よりし、第二階の修善に

於ては、觀佛、四念處觀、空觀の觀を高潮するに對し、第三階の修善には、一に維摩經の所謂八種佛法、二に十二頭陀行、三に觀形像佛、四に空觀を擧げ居り、終りの問答に於て普行の意義を闡明ならしめたるが如き是にして、第三階の修善として四種を出すど雖、八種佛法を主となしこれに以て自己の往生正因と見る三階教徒なるが故に、觀經所説の觀佛の如きは第二階修善の觀に含め、第二階人往生の正因と立て、ここに淨土教徒對三階教徒の論難を生ぜし所以なり。

次に法隆寺藏三階佛法二卷は、余その原本を見るに、卷子本にして平安朝末期頃と思はるゝ寫本なり、開元錄には三階佛法四卷とあり、法隆寺には其中第一第二の兩卷を存するのみ、頃日南都東大寺聖語藏に、三階佛法第二第三第四の三卷保存せられ居り、第二卷の首部に殘缺あるを耳にせり、果して然らば兩者併せ披見するを得は、此書一部を通じてその内容を知悉し得べきなり、道忠の探要記には、三階佛法以下三

十五部四十四卷を、貞元十六年四月十三日、勅を奉じて貞元新定釋教目錄に牒入せる旨の貞元錄の文を引き、その中三階佛法四卷と法界衆生根機淺深法一卷とは、僅にこれを得たれども、其餘は未だ見る能はざることを述べ、次に「集錄第一云」等として、三階集錄を卷一より六文卷二より五文、卷三より三文、卷四より四文、合計十八文を引用せり、此の中券一卷二の引文を法隆寺本三階佛法と對校するに、全部符合するを見る。即ち知る、道忠の引用せる三階集錄とは、三階佛法のことにして、爾後の諸師も皆兩者を同一視せることを。

最後に一言すべきは、道忠の云々せる貞元錄の文は勿論、三階佛法已下の三階教典藉目錄も現行の四本大藏經には、全部削除せられ居ると雖、山田文昭氏藏永久三年筆寫(西紀一)の貞元錄第卅卷には、
錄云三階集錄四十四卷卅五部隋沙門信行撰とし、次に三階佛法四卷已下四十四卷の書目を出してこれを五帙に配し、更に

奉貞元十六年四月十三日勅右街功德使牒入貞元新定釋教目錄

と註し、最後に都計小乘經律論及賢聖集傳見人藏者惣、四百七十五部合二千三百九十三卷二百三十二帙と結べるもの是にして、前掲の探要記の文と合致す。三階教典藉は、隋開皇二十年より唐開元十三年まで、前後百三十一年間に四回の勅禁を蒙りながら、最後の勅禁より七十五年を経て貞元十六年に更に入藏の光榮を有せしなり而して右の貞元錄古寫本によれば、三階集錄とは、三階佛法已下の三階教典藉全部の總稱の如きも、歴代三寶記は、對根起行雜錄三十二卷、三階位別集錄三卷を以て信行の著書となし、内

典錄は、對根起行雜錄集三十六卷、三階位別集錄四卷となせる等、諸錄何れも定題を有せず、極めて錯雜せるを見る、これ費長房が其外題無定准的と論斷せし所以にして、道忠擬然等の諸師が三階集錄と三階佛法を混一するも亦故無きにあらず。

以上龍大圖書館所藏の三階教資料に就て、粗ば見る所を紹介せり、矢吹博士は、その學位論文に各種資料を附して公刊せらるゝの企ありと聞く然れば前掲資料の内容に亘れる詳細は不日矢吹氏著書の出版され、彼此照合の便を得るの日を待ちて、好古諸君子の研鑽に縦すべし。

(十三、三一、九)